

平成21年9月期 第1四半期決算短信

平成21年2月13日

上場会社名 株式会社 アバマンショップホールディングス
 コード番号 8889 URL <http://www.apamanshop-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大村浩次
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 石川雅浩
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月16日

上場取引所 大

TEL 03-3231-8020

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年9月期第1四半期の連結業績(平成20年10月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年9月期第1四半期	13,952	—	△345	—	△298	—	△800	—
20年9月期第1四半期	13,951	9.4	1,255	19.9	1,379	42.9	1,707	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年9月期第1四半期	△822.83	—
20年9月期第1四半期	1,758.58	1,740.61

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
21年9月期第1四半期	96,931	—	3,292	—	1.4	—	1,398.81	
20年9月期	99,903	—	4,373	—	2.4	—	2,429.55	

(参考) 自己資本 21年9月期第1四半期 1,360百万円 20年9月期 2,362百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年9月期	—	850.00	—	—	850.00
21年9月期	0.00	—	—	—	—
21年9月期(予想)	—	—	—	—	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年9月期の連結業績予想(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	30,000	7.9	500	△75.5	500	△75.4	0	—	0.00
通期	80,500	35.9	2,000	336.4	2,000	374.7	1,000	—	1,028.49

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
 新規 一社(社名) 除外 一社(社名 株式会社インボイスMYM)
 (注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
 (注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 有
 (注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年9月期第1四半期 1,033,822株 20年9月期 1,033,822株
 ② 期末自己株式数 21年9月期第1四半期 61,524株 20年9月期 61,524株
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年9月期第1四半期 972,298株 20年9月期第1四半期 971,063株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 本資料に記載されている連結業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。
 (2) 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。
 また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期(平成20年10月1日～平成20年12月31日)におけるわが国経済は、個人消費の停滞、雇用不安、米国の自動車メーカーの経営危機に象徴される米国経済の停滞、さらには為替や販売不振に伴う国内メーカーの業績低下など景気の先行きに対する不透明感が広がりました。その他、世界的な規模で発生した金融収縮や株価下落が企業の活動や業績に直接影響を与えております。

当社グループの事業領域であります不動産業界におきましては、サブプライムローン問題から派生した当業界に対する融資姿勢の消極化、景気悪化による新設着工住宅戸数の減少により状況は悪化しました。それらの事象は不動産流動化ビジネスや分譲ビジネスに大きな影響を与えており、一部では深刻な事態に陥る事例も散見されております。

このような環境下、当社グループは、入居者、FC加盟店、不動産オーナー、投資家のニーズに応えるべく、全国に広がる不動産情報ネットワークを最大限活用し、斡旋事業、プロパティ・マネジメント事業、プリンシパル・インベストメント事業、ファンド事業、コンストラクション事業、キャピタルマネジメント事業、その他事業を展開してまいりました。

特に斡旋事業、プロパティ・マネジメント事業など市場環境に大きく左右されにくい事業を強化し、安定的な収益を維持できるよう対策を講じてまいりました。また、財務体質の健全化に向けて資産構成やコストの見直しも推進してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の業績は、売上高139億52百万円(前年同期比0.0%増)、営業損失3億45百万円(前年同期12億55百万円の営業利益)、経常損失2億98百万円(前年同期13億79百万円の経常利益)、第1四半期純損失8億円(前年同期17億7百万円の第1四半期純利益)となりました。

事業のセグメント別業績は次のとおりであります。

(斡旋事業)

賃貸斡旋を直営店で展開する賃貸斡旋業務は、主に連結子会社である株式会社アパマンショップリーシングが担当しており、第7期から本格的に開始いたしました。当第1四半期末で同社が運営する直営店は、契約ベース65店(前年同期比41店減)、開店ベース65店(前年同期比34店減)となりました。これは収益性改善を目的に一部店舗を統廃合したためでありました。

賃貸斡旋をFC(フランチャイズ)で展開する賃貸斡旋FC業務は、国内最大級の営業拠点「アパマンショップ」を強みとしております。

今年度も「アパマンショップ」ブランドを前面に押し出し、TVCM放映による認知度向上策、契約ベースでの懸賞企画を組み込んだ新生活パワーアップキャンペーンなどの各種販促企画による反響獲得策を推進しております。さらに、WEBでの取り組みにおいては、エンドユーザーの利便性向上のため、賃貸サイト「apamanshop.com」のリニューアルを実施し、PCサイトでの周辺情報表示ほか、データ連動する携帯サイトにてGPS検索機能を追加するなど、最新技術を駆使したコンテンツ強化を実現いたしました。

また、公共性が高まるWEBサイトの質的向上を図るため、前期からスタートしたWEB掲載規程、情報審査(ペナルティ)規程によるコンプライアンスの強化とWEB上での不適切物件通報窓口設置により、WEB掲載情報の精度アップに取り組んでおります。

なお、今期の当社WEBサイト(モバイルサイト含む)へのお問い合わせユニークユーザー数は前年同期比135.2%と大きく増加しております(平成20年10月～平成20年12月集計)。

また、FC加盟店に対しては、引き続き加盟店専用ポータルサイト(FC-Portal)でのノウハウ提供による加盟店サービスの向上、地域別に配置した加盟店支援スタッフ(OF C:オペレーションフィールドカウンセラー)の定期訪問強化によりFC加盟店とのコミュニケーションや業務指導の強化を図っています。一方で、法人顧客拡大策としては、提携企業獲得増、社宅送客強化に引き続き取り組んでおります(前年同期比送客数194.8%、成約数133.3%増加)。さらに、今期より賃貸斡旋・賃貸管理の強化をテーマにした統一スローガンの打ち出し、管理業務受託マニュアルの整備などを行い、FC加盟店の基幹ビジネスにおける収益向上を図っております。

その他、賃貸斡旋業務と賃貸管理業務全般をカバーするアパマンショップトータルシステム(ATS)におきましては、引き続きFC加盟店への導入展開を進めております。賃貸斡旋業務における、店舗オペレーション業務の効率化とビジュアル化を実現する新オペレーションシステム(AOS)においては、システムへの登録物件数が、5,021,291件(平成20年12月31日現在)となりました。本年度も引き続きAOSを前面に押し出したTVCMを放映するなど、AOSに関するプロモーション活動を強化しております。さらに、賃貸管理業務のシステム化を実現するアパマンショッププロパティマネジメントシステム(APS)においては、既にテスト運用を開始しており、12月度より先行導入企業の運用が開始され、今春から順次、全国展開を図ってまいります。APSによりサブリース差益、建物別収支、オーナー別収支など管理業務における精緻な数値分析が可能となり、管理会社の更なる収益改善に貢献するツールとして、業界内でも注目を浴びるシステムとなっております。

なお、当第1四半期末の賃貸斡旋加盟契約店舗数は、925店舗(直営店含む、前期末比10店舗減)となりました。
その結果、斡旋事業の売上高は16億49百万円(前年同期比17.0%減)、営業損失は20百万円(前年同期比94.5%減)となりました。

(プロパティ・マネジメント事業)

賃貸管理業務及びサブリース業務は、入居率及び収益性の向上への取組みを強化すると共に、関連サービスの拡大にも努めてまいりました。当該事業において、不動産オーナーとの取引拡大を図り、より多くのビジネスチャンスを作り出しております。当第1四半期末現在の管理戸数は合計73,660戸(前年同期比28,807戸増、当第1四半期末管理戸数内訳：賃貸管理38,780戸、サブリース管理戸数34,880戸)となりました。

なお、平成20年1月30日及び平成20年3月29日に発表したとおり、ワンルームマンションを中心とした不動産賃貸事業、サブリースを中心に全国32,000戸の管理を行うプロパティ・マネジメント事業を展開する株式会社インボイスRMを子会社化いたしました。今後当社グループのリソースである斡旋事業、プロパティ・マネジメント事業とのシナジーを図りつつ、業容拡大につなげるものであります。なお、平成21年2月1日付けで商号を株式会社アパマンショップサブリースに変更しております。

その結果、プロパティ・マネジメント事業の売上高は82億57百万円(前年同期比118.3%増)、営業利益は1億2百万円(前年同期1億10百万円の営業損失)となりました。

(プリンシパル・インベストメント事業)

家賃収入を目的とする投資不動産業務は、安定的な収益源となっているものの、転売収入を目的とするバリューアップ業務は金融収縮の影響により、販売先の確保には一定の時間が掛かっております。

なお、当社の強みであります不動産情報ネットワークの活用により物件情報の流入は引き続き安定しております。

その結果、プリンシパル・インベストメント事業の売上高は24億64百万円(前年同期比61.1%減)営業損失は1億70百万円(前年同期19億68百万円の営業利益)となりました。

(ファンド事業)

ファンドマネジメント業務は、「ASDレジデンシャルワン」を始めとする当社グループが従来から行ってきた私募型ファンドの運用、及びJ-REIT(東京グロースリート投資法人)からの運用受託収益を基盤としております。当第1四半期において、ファンド物件の販売先が不動産市況低迷の影響を受け、販売には一定の時間が掛かる状態になっておりますが、運用による収益は堅調に推移しました。

その結果、ファンド事業の売上高は4億20百万円(前年同期比61.0%減)、営業利益は1億58百万円(前年同期比17.2%減)となりました。

(コンストラクション事業)

コンストラクション業務は、連結子会社である株式会社AS-SZKiが担当しております。

コンストラクション事業の売上高は7億25百万円(前年同期比86.7%増)、営業損失は9百万円(前年同期比58.0%減)となりました。

(キャピタルマネジメント事業)

キャピタルマネジメント事業は、連結子会社であります株式会社ターナラウンドREにおいて、M&Aコンサルティング、不動産コンサルティング、有価証券等への投資による収益から構成されております。

その結果、キャピタルマネジメント事業の売上高は△1百万円(前年同期25百万円の売上高)、営業損失は3百万円(前年同期3百万円の営業利益)となりました。

なお、当該事業については新たな投資を行う予定はなく、規模の大幅縮小を実施いたします。

(その他事業)

連結子会社である株式会社システムソフトが担当する不動産情報ポータル業務は、平成18年8月にWEBサイト「CatchUp」をオープンし、情報量の拡大や利便性の向上に取り組んでおります。

平成19年9月を持ちまして、不動産情報ポータルへの投資が完了し、当該事業の収益性は回復しております。

その結果、その他事業の売上高は8億15百万円(前年同期比13.9%減)、営業損失は1億21百万円(前年同期比36.2%減)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①当第1四半期における資産、負債、純資産の状況に関する分析

資産合計は前連結会計年度末に比べ29億72百万円減少し、969億31百万円となりました。この主な要因は、投資有価証券の評価替による減少及びたな卸資産の売却による減少によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ18億91百万円減少し、936億38百万円となりました。この主な要因は、借入金及び社債の返済によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末に比べ10億80百万円減少し、32億92百万円となりました。この主な要因は、8億円の損失の計上によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の四半期末残高は、前連結会計年度と比べて93百万円増加し、29億48百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による支出は2億66百万円(前年同期29億29百万円の支出)となりました。この主な要因は、法人税等の支払額4億1百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による収入は9億21百万円(前年同期25億63百万円の収入)となりました。この主な要因は、敷金及び保証金の返還による収入5億75百万円及び投資有価証券売却による収入2億49百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による支出は5億54百万円(前年同期20億11百万円の支出)となりました。この主な要因は、短期借入金による収入48億2百万円があったものの、借入金及び社債の返済による支出53億64百万円が上回ったためであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、平成20年12月5日付けの「平成20年9月期決算短信」にて公表いたしました通期連結業績予想から変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

期中における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動(除外1社)の詳細は以下の通りであります。

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業内容	議決権の所有割合
株式会社インボイスMYM	東京都中央区	492百万円	斡旋事業	100%

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(固定資産の減価償却費の算定方法)

固定資産の減価償却の方法として定率法を採用している場合においては、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

(棚卸資産の評価方法)

棚卸資産の簿価切下げに関して収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価格を見積り、簿価切下げを行なう方法によっております。

(繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法)

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境に著しい変化が生じておらず、かつ一時差異等の発生状況に著しい変化がないため、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックスプランニングを利用する方法により算定しております。

(減損の兆候)

減損の兆候にあたっては、前連結会計年度末以降に使用範囲又は方法について当該資産又は資産グループの回収可能額を著しく低下させる変化を生じさせるような意思決定や、経営環境の著しい悪化に該当する事案が発生したかどうかについて留意し、兆候を把握するか否か決定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

(四半期財務諸表に関する会計基準)

当第1四半期連結会計期間より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来主として個別法による原価法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基く簿価の切下げの方法)により算定しております。

これに伴う連結財務諸表およびセグメント情報に与える影響は軽微であります。

(リース取引に関する会計基準)

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 平成19年3月30日改正)および「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号 平成19年3月30日改正)が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができるようになったことに伴い、当第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、借手側の所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年9月30日以前の借手側の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。

これに伴う連結財務諸表およびセグメント情報に与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,810	3,669
受取手形及び売掛金	1,458	1,696
完成工事未収入金	10	87
有価証券	—	6
商品	25	26
原材料及び貯蔵品	182	186
仕掛品	763	376
販売用不動産	24,929	25,931
不動産信託受益権	8,609	8,612
短期貸付金	1,531	1,535
その他	3,500	3,744
貸倒引当金	△91	△113
流動資産合計	44,731	45,760
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,353	8,568
土地	12,006	12,082
その他(純額)	239	260
有形固定資産合計	20,599	20,910
無形固定資産		
のれん	21,344	21,674
その他	2,476	2,508
無形固定資産合計	23,820	24,183
投資その他の資産		
投資その他の資産	8,592	9,808
貸倒引当金	△1,049	△1,004
投資その他の資産合計	7,542	8,803
固定資産合計	51,962	53,897
繰延資産	237	245
資産合計	96,931	99,903

(単位:百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	879	665
工事未払金	486	858
1年内償還予定の社債	929	1,264
短期借入金	39,958	39,395
未払法人税等	1,690	1,922
賞与引当金	188	336
完成工事補償引当金	17	18
ポイント引当金	29	28
賃貸管理契約損失引当金	119	119
訴訟損失引当金	20	20
その他	7,631	7,515
流動負債合計	51,951	52,143
固定負債		
社債	8,439	8,351
長期借入金	17,236	18,113
退職給付引当金	471	481
負ののれん	7,299	7,643
役員退職慰労引当金	132	128
債務保証損失引当金	129	151
賃貸管理契約損失引当金	8	8
長期預り敷金	3,678	4,189
長期預り保証金	2,902	2,894
その他	1,390	1,425
固定負債合計	41,687	43,386
負債合計	93,638	95,530
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,556	5,556
資本剰余金	5,159	5,159
利益剰余金	△6,707	△5,909
自己株式	△2,434	△2,434
株主資本合計	1,573	2,372
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△182	△9
為替換算調整勘定	△30	△0
評価・換算差額等合計	△213	△9
新株予約権	1	1
少数株主持分	1,930	2,009
純資産合計	3,292	4,373
負債純資産合計	96,931	99,903

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	13,952
売上原価	11,329
売上総利益	2,623
販売費及び一般管理費	2,968
営業損失(△)	△345
営業外収益	
受取利息	23
受取配当金	7
負ののれん償却額	346
持分法による投資利益	5
雑収入	65
営業外収益合計	447
営業外費用	
支払利息	339
支払手数料	22
社債発行費償却	8
雑損失	31
営業外費用合計	400
経常損失(△)	△298
特別利益	
投資有価証券売却益	1
償却債権取立益	2
その他	8
特別利益合計	12
特別損失	
固定資産除却損	27
投資有価証券売却損	19
投資有価証券評価損	178
関係会社株式売却損	2
店舗閉鎖損失	19
事務所閉鎖損失	40
貸倒損失	59
その他	67
特別損失合計	414
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純損失(△)	△701
匿名組合損益分配額	△7
税金等調整前四半期純損失(△)	△693
法人税、住民税及び事業税	92
法人税等調整額	90
法人税等合計	183
少数株主損失(△)	△77
四半期純損失(△)	△800

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当第1四半期連結累計期間
(自平成20年10月1日
至平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△693
減価償却費	223
のれん償却額	327
負ののれん償却額	△346
貸倒引当金の増減額(△は減少)	23
賞与引当金の増減額(△は減少)	△145
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△12
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	8
受取利息及び受取配当金	△30
支払利息	339
持分法による投資損益(△は益)	△5
社債発行費償却	7
固定資産除却損	27
減損損失	19
投資有価証券売却損益(△は益)	18
投資有価証券評価損益(△は益)	178
関係会社株式売却損益(△は益)	2
売上債権の増減額(△は増加)	250
たな卸資産の増減額(△は増加)	△23
不動産信託受益権の増減額(△は増加)	624
有価証券の増減額(△は増加)	6
投資預け金の増減額(△は減少)	2
営業目的有価証券の増減額(△は増加)	1
仕入債務の増減額(△は減少)	△158
未払金の増減額(△は減少)	△258
預り敷金及び保証金の増減額(△は減少)	△513
その他	533
小計	406
利息及び配当金の受取額	10
利息の支払額	△329
法人税等の支払額	△401
法人税等の還付額	48
営業活動によるキャッシュ・フロー	△266

(単位:百万円)

当第1四半期連結累計期間
(自平成20年10月1日
至平成20年12月31日)

投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△52
定期預金の払戻による収入	6
有形固定資産の取得による支出	△8
有形固定資産の売却による収入	179
投資有価証券の売却による収入	249
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△17
関係会社株式の取得による支出	△10
投資預け金の増減額(△は減少)	1
貸付金の回収による収入	13
敷金及び保証金の差入による支出	△30
敷金及び保証金の回収による収入	575
その他	14
投資活動によるキャッシュ・フロー	921
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	4,802
短期借入金の返済による支出	△3,800
長期借入れによる収入	1
長期借入金の返済による支出	△1,317
社債の償還による支出	△247
株式の発行による収入	10
自己株式の取得による支出	△0
配当金の支払額	△2
預り匿名組合出資金の払戻しによる支出	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△554
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	93
現金及び現金同等物の期首残高	2,854
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,948

(4) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、サブプライムローン問題に端を発する国際的金融市場の収縮、不動産市況の低迷という経営環境の悪化を受け、前連結会計年度において7,033百万円の当期純損失を計上し、当第1四半期連結会計期間におきましても四半期純損失800百万円を計上いたしました。また、営業活動によるキャッシュ・フローも、前連結会計年度において4,467百万円のマイナス、当第1四半期連結会計期間は266百万円のマイナスとなっており、短期運転資金の確保が必要な状況が継続しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する疑義が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、今後も引き続き不動産市況の変化の影響が大きいプリンシパル・インベストメント事業（不動産投資事業）・ファンド事業（ファンドマネジメント事業）を当面凍結し、斡旋事業（賃貸不動産斡旋事業）、プロパティ・マネジメント事業（不動産管理事業）に集中して売上の増加を図るとともに、費用削減による合理化の進展により、経営資源を効率化し収益性の向上を遂行する計画です。また、資金面では、短期運転資金を確保するため、金融機関からの協力を得て、新たな当座貸越枠の設定、新規借入の実行及び既存の借入金について返済条件の変更を図っております。

このような経営資源の効率化による収益性の向上及び資金面での対応を図ることによって、継続企業の前提に関する疑義は解消できると判断しております。

したがって、当第1四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような疑義の影響を第1四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間に係るセグメント情報（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）

	斡旋事業 (百万円)	プロパティ・マネジメント事業 (百万円)	プリンシパル・インベストメント事業 (百万円)	ファンド事業 (百万円)	コンストラクション事業 (百万円)	キャピタルマネジメント事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高										
(1)外部顧客に対する売上高	1,583	8,192	2,404	420	722	△1	630	13,952	—	13,952
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	66	65	60	—	3	—	184	379	△379	—
計	1,649	8,257	2,464	420	725	△1	815	14,331	△379	13,952
営業利益又は営業損失(△)	△20	102	△170	158	△9	△3	△121	△65	△280	△345

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、サービス内容及び対象顧客層の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要なサービス

事業区分	主要なサービス
斡旋事業	賃貸斡旋業務、賃貸斡旋FC業務、情報インフラ業務、売買斡旋業務、関連サービス業務
プロパティ・マネジメント事業	賃貸管理業務、サブリース業務
プリンシパル・インベストメント事業	投資不動産業務、バリューアップ業務
ファンド事業	ファンドマネジメント業務
コンストラクション事業	建設業務
キャピタルマネジメント事業	キャピタルマネジメント業務
その他事業	不動産ポータル事業、コンストラクションFC事業等

3. 事業区分の方法の変更

従来、「その他事業」に含まれておりましたキャピタルマネジメント業務に係る「キャピタルマネジメント事業」については、その重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より「キャピタルマネジメント事業」として独立掲記しております。

なお、前第1四半期連結会計期間のセグメント情報を、当第1四半期連結会計期間において用いた事業区分の方法により区分すると次のとおりになります。

前第1四半期連結累計期間に係るセグメント情報(自平成19年10月1日 至平成19年12月31日)

	幹旋事業 (百万円)	プロパ ティ・マ ネジメン ト事業 (百万円)	プリンシ パル・イ ンベスト メント事 業 (百万円)	ファン ド事 業 (百万円)	コンス トラク ション 事業 (百万円)	キャピ タルマ ネジメ ント事 業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高										
(1)外部顧客に 対する売上高	1,714	3,720	6,255	1,068	385	25	781	13,951	—	13,951
(2)セグメント 間の内部売上 高又は振替高	272	63	78	9	3	—	139	567	△567	—
計	1,987	3,783	6,334	1,078	388	25	921	14,518	△567	13,951
営業利益又は 営業損失(△)	△367	△110	1,968	191	△23	3	△194	1,466	△211	1,255

b. 所在地別セグメント情報

当第1四半期連結会計期間において、本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

c. 海外売上高

当第1四半期連結会計期間において、海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

科目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成19年10月1日 至 平成19年12月31日)	
	金額(百万円)	
I 売上高		13,951
II 売上原価		8,829
売上総利益		5,121
III 販売費及び一般管理費		3,866
営業利益		1,255
IV 営業外収益		
1. 受取利息	19	
2. 受取配当金	3	
3. 持分法による投資利益	5	
4. 負ののれん償却額	348	
5. 雑収入	96	473
V 営業外費用		
1. 支払利息	275	
2. 支払手数料	5	
3. 社債発行費償却	9	
4. 雑損失	58	349
経常利益		1,379
VI 特別利益		
1. 投資有価証券売却益	712	
2. 受取補償金	22	735
VII 特別損失		
1. 固定資産除却損	57	
2. 投資有価証券評価損	1	
3. その他特別損失	20	79
匿名組合出資損益分配前 税金等調整前第1四半期 (当期)純利益		2,034
匿名組合出資損益分配額 税金等調整前第1四半期 (当期)純利益		△0
法人税、住民税及び事業税	1,100	2,035
法人税等調整額	△789	310
少数株主利益及び 損失(△)		17
第1四半期(当期)純利益		1,707

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当第1四半期連結会計期間 (自 平成19年10月1日 至 平成19年12月31日)
	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前第1四半期(当期)純利益	2,035
減価償却費	247
のれん償却額	270
負ののれん償却額	△348
貸倒引当金の増加額	38
賞与引当金の増加額(△減少額)	△195
退職給付引当金の増加額	5
役員退職慰労引当金の増加額(△減少額)	4
受取利息及び受取配当金	△22
支払利息	275
持分法による投資損失(△利益)	△5
営業目的投資有価証券の減少額	13
社債発行費償却	9
固定資産除却損	57
投資有価証券売却益	△712
投資有価証券評価損	1
売上債権の減少額(△増加額)	△1,529
棚卸資産の減少額(△増加額)	△838
不動産信託受益権の減少額(△増加額)	615
有価証券の減少額(△増加額)	△25
仕入債務の増加額(△減少額)	438
未払金の減少額	△27
敷金預り金の増加額(△減少額)	△360
その他	241
小計	188
利息及び配当金の受取額	11
利息の支払額	△280
法人税等の支払額	△2,849
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,929

科目	当第1四半期連結会計期間 (自 平成19年10月1日 至 平成19年12月31日)
	金額(百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△100
定期預金の払戻による収入	0
有形固定資産の取得による支出	△350
有形固定資産の売却による収入	12
無形固定資産の取得による支出	△598
投資有価証券の取得による支出	△1,234
投資有価証券の売却による収入	4,491
投資預け金の減少額(△増加額)	331
貸付金の回収による収入	63
敷金及び保証金の払込による支出	△114
敷金及び保証金の返還による収入	71
その他	△11
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,563
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	7,582
短期借入金の返済による支出	△5,449
長期借入れによる収入	1,284
長期借入金の返済による支出	△2,977
預り出資金の払戻による支出	△320
社債の償還による支出	△247
新株予約権の行使による収入	36
配当金の支払額	△1,219
貸株担保預り金の返還による支出	△2,400
貸株担保預り金の預りによる収入	1,700
その他	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,011
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△2
V 現金及び現金同等物の減少額	△2,379
VI 現金及び現金同等物の期首残高	12,027
VII 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—
VIII 現金及び現金同等物の期末残高	9,647

(3) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間(自平成19年10月1日 至平成19年12月31日)

	幹旋事業 (百万円)	プロパ ティ・マ ネジメ ント事 業 (百万円)	プリン シパ ル・イ ンベ スト メン ト事 業 (百万円)	ファン ド事 業 (百万円)	コンス トラ クシ ョ ン 事 業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1)外部顧客に 対する売上 高	1,714	3,720	6,255	1,068	385	807	13,951	—	13,951
(2)セグメント 間の内部売 上高または 振替高	272	63	78	9	3	139	567	△567	—
計	1,987	3,783	6,334	1,078	388	946	14,518	△567	13,951
営業利益又は 営業損失 (△)	△367	△110	1,968	191	△23	△191	1,466	△211	1,255